



# 動物レスキュー通信

2020年8月 第87号 (令和2年8月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長  
愛玩動物飼養管理士 一級  
ペット災害危機管理士 三級  
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

## 病気予防に大切なこと 免疫力とワクチン



本格的に暑くなり、マスクを着けているのがつらい季節となつてしまいましたが、新型コロナウイルスの感染拡大は一向に収まりを見せてくれません。様々な場所でクラスターが発生し、感染経路も当初名指しされてきた新宿の夜の街などの接待を伴う飲食店にとどまらず、家庭内感染など、どれだけ気を付けていても感染を防ぐことができないのでは？というような状況まで来てしまつていくようです。そこでやはりとても大切になつてくるのが、自分自身の免疫力をアップし感染しない、もしくは感染してしまつたとしても重症化しないようにすることが大切だと思います。それは今回の新型コロナウイルスに限ってだけではなく様々な病気に共通して言えることで、飼い主さんだけの話ではなく、ワンちゃん、ネコちゃんも同じこと。今回は病気になるらないためにも大切な免疫についてお話していこうと思ひます。

### 免疫の種類

①免疫には「自然免疫」と「獲得免疫」の2種類があります。まずは病原体が体内に侵入しようと試みます。その際に働くのが自然免疫。この自然免疫の働きによって、物理的なバリアが働き、くしゃみや咳が出たりするので。それだけではなく鼻や目、口などの胃腸や粘液などに

よつて防御されます。それをかいくぐつて侵入した病原体をさらに排除しようとする自然免疫によって皮脂や汗、唾液、涙、胃酸、消化液などの働きや炎症反応、白血球の働きによつてさらに防御されます。そして免疫を獲得し、再び侵入してくる病原体に対して効果を発揮する免疫を獲得することができ、これが「獲得免疫」という事です。この獲得免疫の仕組みを利用してワクチンが作られます。ワンちゃん、ネコちゃんのかかりやすい感染症は混合ワクチンで予防することができます。

### ワクチンの働き

ワンちゃんの混合ワクチンは一般的に5種〜8種です。①犬ジステンパー(咳や下痢、致命的な肺炎や麻痺を引き起こす致死性の高い感染症) ②犬アデノウイルス1型感染症(犬伝染性肝炎) ③犬アデノウイルス2型感染症(犬伝染性喉頭気管支炎) ④犬パラインフルエンザ感染症(呼吸器系ウイルス) ⑤犬パルボウイルス感染症(重度の胃腸炎を引き起こし、命に係わる感染症) ⑥コロナウイルス感染症(嘔吐や下痢などの消化器症状を引き起こす) ⑦犬レプトスピラ症イクテロヘモラジ型(ネズミによつて感染する人獣共通症細菌性感染症で多臓器不全、最悪の場合は死亡してしまいます) ⑧犬

レプトスピラ症力ニコーラ型を防ぐことができます。5種混合ワクチンでは①〜⑤、6種は①〜⑥、7種では①〜⑤と⑦、⑧、8種では①〜⑧のすべてを予防できます。ネコちゃんの混合ワクチンは一般的に3〜5種です。①猫ウイルス性鼻気管炎(上部呼吸器感染症) ②猫カリシウイルス感染症(歯肉炎、口内炎、鼻水などを引き起こす、ネコによくみられる感染症) ③猫汎白血球減少症(白血球が急激に減少し、発熱、元氣消失、食欲不振、下痢、嘔吐、脱水などを起こし、死に至る危険性がある感染症) ④猫白血病ウイルス感染症(発熱や元氣消失、リンパ節の腫れ、白血球減少症、血小板減少症、貧血などを引き起こす命に係わる感染症) ⑤猫クラミジア感染症(目や二、結膜炎を引き起こす感染症)を防ぐことができます。3種混合ワクチンでは①〜③、4種は①〜④、5種は①〜⑤のすべてを予防できます。ワンちゃん、ネコちゃん共どのワクチンを打つべきか、獣医師に相談し居住地域や飼育環境などに合わせて決定して接種してあげましょう。また、生後1年未満や高齢期に入ったワンちゃん、ネコちゃんは免疫力が低いため、感染症にかかりやすくなつてしまひます。もちろんそれ以外のワンちゃん、ネコちゃんでも病を持つていたり、免疫力が低い場合は感染症にかかりやすくなります。ワクチンを接種することで感染を予防し、万が一感染してしまつたとしても重症化させずに済みます。ワンちゃん、ネコちゃんのできるだけ幸せな生活を長続きさせるためにも年に1回は忘れずにワクチンを接種してあげてください。そうすることで飼い主さんとの関係もより長く良好に保てるはずです。(詩月)